

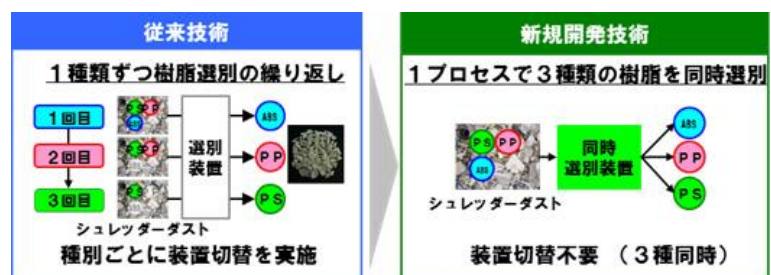
## 「循環型モノづくりの進化」と「サーキュラーエコノミー型事業の創出」に挑む

人々の暮らしに寄り添うメーカーとして早くからサステナビリティの視点を持ち、2001 年から家電リサイクル拠点「パナソニック エコテクノロジーセンター（以下 PETEC）」を操業。長年培った技術と知見、グループ全体の資源循環に資するリソースを総動員し、サーキュラーエコノミーの実現に貢献する。



### ▲樹脂循環取り組みの流れ

\* PETEC では家電製品のリサイクルの際に課題となっていた樹脂の選別について、3 種のプラスチック（PP、PS、ABS）を純度 99%以上という高精度かつ瞬時に同時選別が可能となる近赤外線識別技術を用いた装置を 2010 年に開発。それまで廃棄か燃料とする以外に用途がなかったシュレッダーダスト（有価資源を取り出した後に残ったプラスチックなどの破砕片）から資源化への新たな活路を開いた。さらにこの開発から 4 年後には、選別精度はそのままに従来比約 3 倍のスピードでプラスチックを瞬時に同時選別する技術の開発に成功し、作業効率も飛躍的に向上。



### ▲3 種類の樹脂を同時選別可能なリサイクル技術

\* こうした努力の積み重ねにより、PETEC では現在、人の手による解体と機械による選別を高度に組み合わせ、工程そのものも進化させることで、手掛ける使用済み家電全体で約 90%と、高いリサイクル率を誇っている。

### 背景・きっかけ

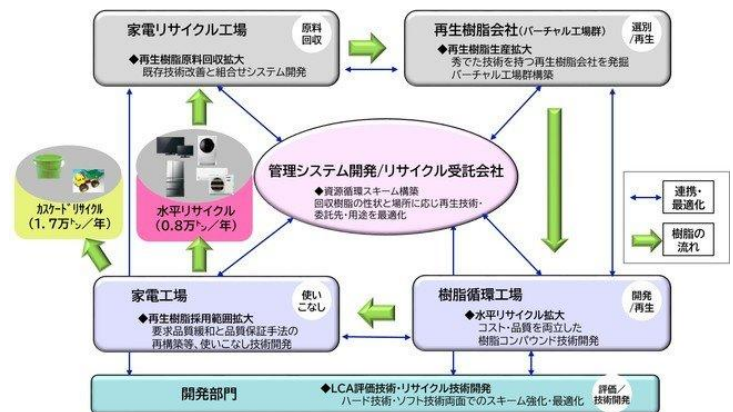
\* パナソニックは、人々の暮らしに寄り添うメーカーの責任として早くからサステナビリティの視点を持ち、PETEC の創業も家電リサイクル法施行と同時に行うなど、古くからリサイクルの技術と知見を高めてきた。

## 取組のポイント

### ▶積み上げてきたリサイクル関連技術を製品開発へフィードバックしつつ、グループ全体のリソースを統合した循環型サプライチェーンを構築

\* PETEC ではパナソニック設計担当者へのフィードバック、意見交換、設計者自らが商品実物の解体を体験でき、同社の新製品の設計ガイドラインには部品点数の削減やプラスチックと金属の分別が不要な設計など、リサイクル配慮設計が盛りこまれるなど、随所に PETEC の知見が活かされている。

\* PETEC を含むグループ内の関連部門、関係会社も巻き込み、原料回収率の向上・コストと品質を両立した樹脂の開発・樹脂工場での生産量増大・家電工場における使いこなしの拡大・全体をコーディネートするスキームと、適材適所で役割を担う形で連携し再生樹脂のライフサイクルを回す「家電リサイクル樹脂の循環型サプライチェーン」を全国規模で構築。個別技術を進化させるとともに、スキームを通じた高位平準化を進めている。

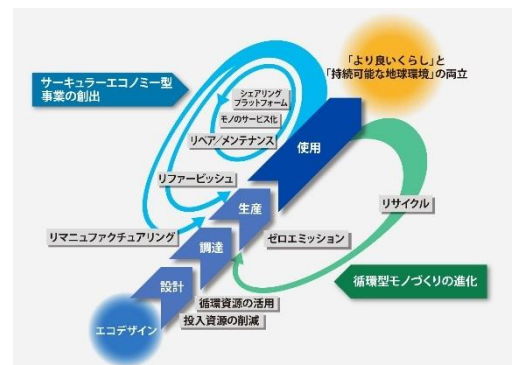


▲家電リサイクル樹脂の循環型サプライチェーン構築

## 今後の展望

### ▶家電リサイクル法に基づく循環型モノづくりと CE 型の新たなビジネスモデルに両輪で取り組む

\* 2022 年には自社や顧客、社会の CO2 削減に貢献し社会のエネルギー変革にインパクトを与える長期環境ビジョン「Panasonic GREEN INPACT」を発表。さらに 2023 年には GX における CE の位置づけを明示する為「サーキュラーエコノミーグループ方針」を策定。2025 年 3 月までに再生樹脂の使用量 9 万トンを目標に掲げ、CE 実現に貢献する。



▲サーキュラーエコノミーの取り組みコンセプト

## 参考ページ

パナソニックホールディングス株式会社 HP

(<https://holdings.panasonic.jp/corporate/sustainability/sdgs/case-study/case03.html>)

(<https://holdings.panasonic.jp/corporate/panasonic-green-impact/action/circular-economy.html>)

(<https://news.panasonic.com/jp/topics/204425>)

## 企業概要

### パナソニックホールディングス株式会社

所在地 大阪府門真市大字門真 1006 番地

資本金 2,594 億円

事業内容 家電・空質空調・食品流通・電気設備・デバイス等の開発・製造・販売

### パナソニック エコテクノロジーセンター株式会社

所在地 兵庫県加東市佐保 50 番地

資本金 4 億円

事業内容 使用済み家電製品の再商品化（リサイクル）およびリサイクル技術の開発・実証